
ストーカーの作り方

本上 ひろと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストーリーの作り方

【Nコード】

N1790B

【作者名】

本上 ひると

【あらすじ】

ある日、自分の理想にピッタリな完璧な人に出会ったら、どうしますか。

ある日、東京に向かう電車の中で僕はある女性に出会った。

完璧だった、間違いなく完璧だった。

なんとなくか、その女性に対して、何か文句をつけることができない。それほどその女性は完璧だった。

もちろん、僕にとってはという意味だけど。

そりゃあ、一目見かけたただだから、話したこともない訳だし、どんな声なのかも知らない。

外見上の話だ。

彼女の目、耳、口、髪型、ファッション、体型、身長、指の形。

とにかく目に見える部分は僕の理想の中のド真ん中を突いてきた。

この女性が例え、魔女のような性格でも、または家庭環境に複雑な問題があるうとも、莫大な借金を抱えていようとも、僕は全く問題にしないで、サラッと流して、彼女を受け入れられると思った。

むしろ、他の男じゃ参ってしまうような、何か大きな問題が彼女の身に起こっていればいいのと思った。

彼女は、電車の長い座席に座っている。僕は彼女の斜め前に立っていた。

彼女がチラリと僕を見た。でもそれは特別なものではなくて、あり

ふれた視線だった。

彼女に釘付けになっていた僕は、一瞬にして、胸がドクンっていうのわかった。顔が熱くなつて、脂汗が噴き出した。

彼女に見られていた数秒間、顔に力が入りすぎて、普通の顔ができなかったと思う。

名前もしらない彼女に変な顔を見られてしまったかもしれないという思いが、また顔を熱くした。

一駅一駅、到着を知らせる車内アナウンスが流れるたび、彼女が降りていってしまうのではないかという不安に、ハラハラした。

彼女をのがしたくなかった。

頭の中で、どうしたら彼女をのがさないようにできるか、必死で考えた。

彼女が降りた時に僕も降りて、正直に

「一目惚れしてしまいました」

って言おうか。

うーん、なんかナンパ野郎にしか思われなさそうだからダメだ。

じゃあ、小さなメモに

「可愛いですね、友達になってください。」

って携帯の番号でもつけとくか。

だめだ、これもメモ捨てられて終わりだ。

第一、見知らぬ男にいきなりこんなことされたら、キモがられるだけだ。

俺には彼女に話しかけるチャンスすらないのか。

話せなくてもいい。今日会ったのが最初で最後で、もう永遠に彼女に会えないってのだけは絶対に嫌だ。

そうだ、卑怯かもしれないけど、彼女のあとをついて行って家突き止めよう。そうすればいつでも彼女に会える。

よし、完璧だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1790b/>

ストーリーの作り方

2010年11月25日14時07分発行